

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 7 号について
平成 2 1 年度病害虫発生予報第 7 号を発表したので送付します。

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 7 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
施設野菜全般	アブラムシ類	やや多	2
	ハスモンヨトウ	やや多	2
	タバココナジラミ類（タバココナジラミ、ミハイタイプQ及びシハラ-リ-コナジラミ）	やや多	2
冬春キュウリ	べと病	やや多	3
	うどんこ病	並	3
	褐斑病	並	3
	ミナミキイロアザミウマ	並	4
冬春ピーマン	斑点病	並	4
	うどんこ病	やや少	4
	ミナミキイロアザミウマ	並	4
冬春トマト	葉かび病	並	4
	トマト黄化葉巻病（TYLCV）	前年と同程度	4
	タバココナジラミ類	やや多	5
冬春イチゴ	うどんこ病	多	5
	炭疽病	-	5
	ハダニ類	やや少	5
	アブラムシ類	多	5
カンキツ類 (露地栽培)	ミカンハダニ	並	6
チャ	カンザワハダニ	並	6

は防除情報、 は注意報を発表

作物の生育状況（10月中旬）

冬春キュウリ、冬春ピーマン、冬春トマト、冬春イチゴは定植～生育初期、うんしゅうみかんは収穫期、中晩柑（日向夏）は果実肥大期、茶は秋芽生育期であった。

向こう1か月の気象予報

天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並の確率40%と予想されています。

（1か月予報 鹿児島地方気象台10/23発表）

発生予報の根拠および防除対策

施設野菜全般

1 アブラムシ類 (やや多)

平成21年度病害虫防除情報第5号(10月29日発表)参照

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の巡回調査における冬春イチゴの発生面積率57.1%(平年25.2%)、寄生株率18.0%(平年3.1%)はいずれも平年より多である。
- (2) 冬春キュウリ、冬春ピーマンは発生未確認である(平年の発生面積率:キュウリ0.8%、ピーマン0.0%)。
- (3) 黄色水盤での誘殺数(佐土原町)は、平年並で推移している。

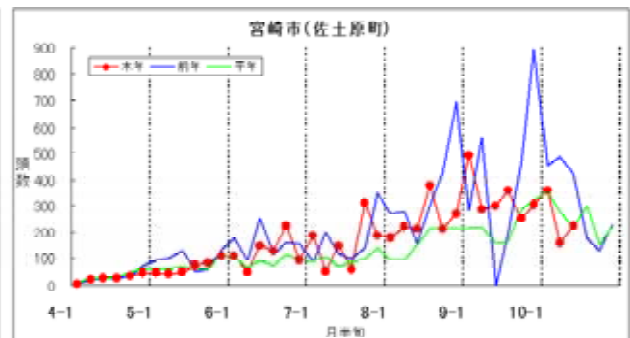
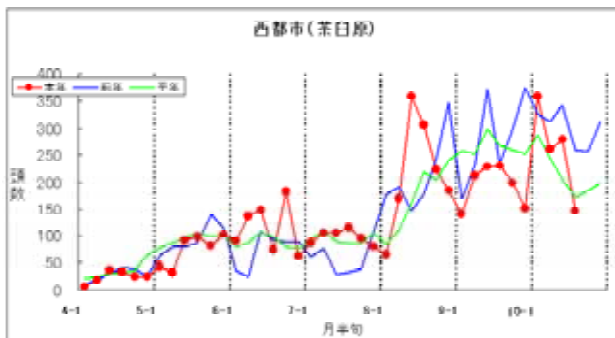
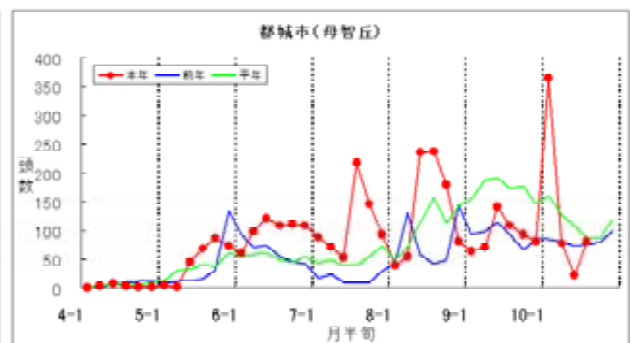
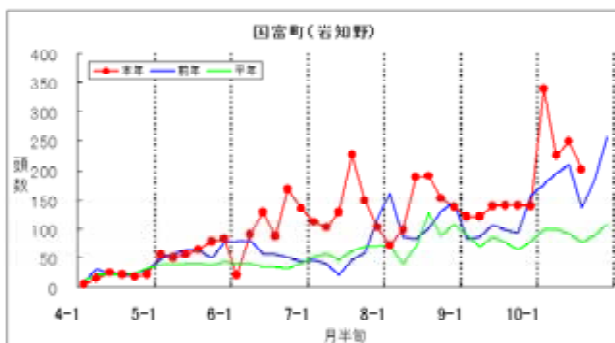
[防除上の注意]

- (1) キュウリやピーマン等多くの作物でウイルス病を媒介するので、有翅虫の飛来防止に努めるとともに、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を定期的に行う。

2 ハスモンヨトウ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の巡回調査では、冬春キュウリ、冬春ピーマン、冬春トマト及び冬春イチゴで食害の発生を確認している。
- (2) フェロモントラップの誘殺状況は、平年並~やや多で推移しており、特に10月第1半旬に大きなピークが見られる。



[防除上の注意]

- (1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。
- (2) 施設内で発生すると、天敵類が少ないことや施設内気温が高いことから、増殖しやすくなるので注意が必要である。

3 タバココナジラミ類 (タバココナジラミ、タバココナジラミ) (やや多)

平成21年度病害虫防除情報第5号(10月29日発表)参照

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の巡回調査における冬春キュウリの発生面積率76.9%(平年46.2%)で平年よりやや多、100葉虫数14.5頭(平年3.8頭)は平年より多である。冬春ピーマ

- ンの発生面積率38.5%（H20：42.9%、H19：61.5%）、100葉虫数2.2頭（H20：2.7頭、H19：2.9頭）はいずれも前年と同程度である。冬春トマトの発生面積率50.0%（平年31.0%）は平年並、100葉虫数5.6頭（平年1.2頭）は平年より多である。
- （2）向こう1か月の気温は、高い確率50%と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- （1）施設開口部には必ず防虫ネットを設置して、施設内への侵入を防止する。設置する防虫ネットは、目合い0.4mm以下のものが有効である。
- （2）施設内には黄色粘着板等を設置し、早期発見に努めるとともに本虫の密度を抑制する。
- （3）多発してからでは防除が難しくなるので、発生を確認したら早めに防除する。
なお、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- （4）施設内外の雑草は、タバココナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。

冬春キュウリ

1 ベと病（やや多）

[予報の根拠]

- （1）10月中旬の巡回調査では、発生面積率15.4%（平年8.2%）は平年より多、発病葉率2.0%（平年0.7%）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- （1）湿度が高いときに発生しやすく、激発すると防除が困難となるので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。
- （2）窒素切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように適正な肥培管理に努める。

2 うどんこ病（並）

[予報の根拠]

- （1）10月中旬の巡回調査では発生面積率30.8%（平年21.5%）は平年並、発病葉率0.8%（平年2.5%）は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- （1）病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- （2）耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- （3）乾燥時に多発するので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

3 褐斑病（並）

[予報の根拠]

- （1）10月中旬の巡回調査では発生未確認である。（平年の発生面積率15.8%）
- （2）向こう1か月の気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、本病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- （1）多発してからの防除は困難なので、初期防除を徹底する。
- （2）窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- （3）摘除した罹病葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- （4）べと病やうどんこ病の発生後に激発することがあるので、本病以外の病害の発生に注意する。

4 ミナミキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査では発生を認めていない。(平年の発生面積率 : 0.0%)

[防除上の注意]

(1) 多発してからでは防除が難しくなるので、低密度のうちに防除する。

(2) マルチ被覆や誘殺のための青色粘着板の設置により、生育密度の抑制に努める。

冬春ピーマン

1 斑点病 (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年の発生面積率3.5%)。

(2) 向こう1か月の気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、本病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

(1) 多湿条件で発生しやすいので、除湿に努める。

(2) 病原菌が侵入した後の防除効果は低いので予防散布を行う。

2 うどんこ病 (やや少)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年の発生面積率4.7%)

[防除上の注意]

(1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。

(2) 病勢が進展してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

3 ミナミキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の発生面積率15.4%(平年29.6%)は平年よりやや少、10花当り寄生虫数0.7頭(平年0.8頭)は平年並である。

(2) 向こう1か月の気温は、高い確率50%と予想されており、本虫の増殖に好適な環境が続くと考えられる。

[防除上の注意]

(1) 10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。また、多発してからでは防除が難しくなるので、低密度の内に防除を徹底する。

(2) マルチ被覆や誘殺のための青色粘着板の設置により、生育密度の抑制に努める。

冬春トマト

1 葉かび病 (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年の発生面積率 : 1.4%)

[防除上の注意]

(1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。

(2) 発病初期の防除を徹底する。

2 トマト黄化葉巻病 (TYLCV) (前年と同程度)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。

(発生面積率H20 : 10.0%、H19 : 33.3%)。

- (2) 本病を媒介するタバココナジラミ類は平年よりやや多い発生となっている。
- (3) 向こう1か月の気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、媒介虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- (1) 生育初期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、発病株はすぐに抜き取り、速やかに埋没等適正に処理する。
- (2) 本病を媒介するタバココナジラミ類 (タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ) の防除対策については、施設野菜全般のタバココナジラミ類 (2 ページ) を参照のこと。

3 タバココナジラミ類 (タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ) (やや多) 平成21年度病害虫防除情報第5号 (10月29日発表) 参照

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の発生面積率50.0% (平年31.0%) は平年並、100葉虫数5.6頭 (平年1.2頭) は平年より多である。

[防除上の注意]

施設野菜全般のタバココナジラミ類 (2 ページ) を参照のこと。

冬春イチゴ

1 うどんこ病 (多)

平成21年度病害虫発生予察注意報第2号 (10月29日発表) 参照

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の発生面積率35.6% (平年11.7%)、発病葉率7.2% (平年1.4%) はいずれも平年より多である。

[防除上の注意]

- (1) 初め葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- (2) 激しく発病すると防除効果が低くなるので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。
- (3) 発病果など被害部は、伝染源になるので早めに取り除き、ほ場内に放置しない。

2 炭疽病

[防除上の注意]

- (1) 多湿にならないよう、ほ場の排水対策を十分行う。
- (2) 定植後に発病した株は、早期に除去し、新たな感染を防止する。
- (3) 親株床の発病残渣は翌年の伝染源になるのでほ場外に持ち出し適正に処分する。

3 ハダニ類 (やや少)

[予報の根拠]

- (1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年の発生面積率29.4%)

[防除上の注意]

- (1) 寄生数が増加してからの防除は困難なので、密度が低い時点からの防除を徹底する。
- (2) ミツバチに影響のある農薬があるため、ミツバチを入れる前に防除の徹底を図るとともに、使用する農薬に留意する。
- (3) 株整理後、葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。
- (4) ダニ剤散布時、葉裏に良くかかるようにていねいに散布する。
- (5) 薬剤感受性の低下を避けるため、系統の異なる農薬をローテーションで使用する。

4 アブラムシ類 (多)

平成21年度病害虫防除情報第5号 (10月29日発表) 参照

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の巡回調査における冬春イチゴの発生面積率57.1% (平年25.2%)、寄生株率18.0% (平年3.1%) はいずれも平年より多である。

[防除上の注意]

- (1) 寄生数が増加してからの防除は困難なので、密度が低い時点からの防除を徹底する。
- (2) ミツバチに影響のある農薬があるため、ミツバチを入れる前に防除の徹底を図るとともに、使用する農薬に留意する。

カンキツ類(露地栽培)

1 ミカンハダニ (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の発生面積率25.0% (平年45.6%) は平年より少、寄生葉率6.1% (平年9.5%) は平年並である。

[防除上の注意]

- (1) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5～10頭を目安に、発生初期に防除を行う。
- (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一及び同系統の農薬の連用を避ける。

チャ

1 カンザワハダニ (並)

[予報の根拠]

(1) 10月中旬の発生面積率29.4% (平年33.0%) は平年並、寄生葉率1.4% (平年3.3%) は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- (1) 気温が高いと生息密度が高まり、防除効果が劣るため、秋整枝後に防除し、越冬前の生息密度を低下させる。
- (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一及び同系統の農薬の連用を避ける。

その他

1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

農林水産消費安全技術センターホームページ

(旧 農薬検査所) <http://www.acis.famic.go.jp/>

2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤 (商品名、マリックス乳剤、粒剤等) は使用しないこと。

3 発生量 (程度) の区分

多	い	(高	い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多	い	(やや高	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少	ない	(やや低	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少	ない	(低	い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

(1) 予 報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。

- (2) 注 意 報 . . . 主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- (3) 警 報 . . . 主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- (4) 特 殊 報 . . . 県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
- (5) 防除情報 . . . 注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。
ホームページアドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>です。

【 文 書 取 扱 】

病虫害防除・肥料検査センター 生頼

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp